

I

出典「3つの循環と文明論の科学—人類の未来を大切に思うあなたのためのリベラルアーツ」
(岸田一隆) エネルギーフォーラム2014年

物質やエネルギーの循環について環境問題も関連させながら考察している箇所から出題しました。論旨と主張も明快ですから内容を理解するのは、さほど難しくはないでしょう。

問1【漢字の書き取り問題】(解答番号は 1 ~ 7)

a 瓶 b 死骸 c 育 d 滞留 e 地殻 f 浸(侵)食 g 秀逸 がそれぞれ正答です。「滞留」を「対流」、「地殻」を「知覚」とするなどの誤答が見受けられました。前後の文脈により判断することが重要です。なお、fについては本文では「浸食」となっていますが、地学の学術用語として現在では「侵食」が一般的ですから後者も正答としました。漢字の書き取りの全問正答者は1人だけでした。

問2【空欄補充】(解答番号は 8)

正答は③です。空欄 I と同じ段落で「全体」と「部分」が対比されていること、および2つ前の段落の「熱力学第二法則」の説明がヒントになります。正答率は39%でした。

問3【空欄補充】(解答番号は 9)

正答は⑦です。空欄 II の直前の「スピード」と対比されているものが何かを読解することが重要です。本文には「空間的な密度」やまさに「速度と密度」という表現があります。正答率は81%と多くの受験生ができていました。

問4【空欄補充】(解答番号は 10)

正答は①です。正答率96%とほとんどの受験生が正答でした。

問5【空欄補充】(解答番号は 11)

正答は⑧です。直前の「反対に」が最大のヒントです。正答率は84%でした。

問6【空欄補充】(解答番号は 12)

正答は⑥です。最初の空欄 ウ の直後が最大のヒントです。正答率は72%でした。

問7【文脈把握による内容理解】(解答番号は 13)

正答は⑦です。本文2段落目の内容を理解していれば、正答を導くことは容易でしょう。正答率89%と大半の受験生が正答していました。

問8【文脈把握による内容理解】(解答番号は 14)

正答は⑤です。複数名が④を選んでいましたが、「どちら」の文脈上の意味を正確に理解することで正答が得られます。正答率は86%でした。

問9【文脈把握による内容理解】(解答番号は 15)

正答は⑤です。③の誤答を選んだ受験生も多いですが、傍線部と同じ段落に「急速に」という言葉があるため、不正解になります。正答率は63%でした。

問10【文脈把握による理由説明】(解答番号は 16)

正答は④です。③の誤答を選んだ受験生も多いですが、地方「だけ」ということまでは本文には書かれていません。正答率は49%でした。

問11【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は17）

⑧が正答です。③の「ビールビン」はあくまで例にすぎず、⑥については「可逆性」という言葉自体が本文には出てきません。正答率は58%でした。

問12【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は18）

正答は②です。誤答として最も多かったのは①ですが、本文を注意深く読めば、「文明の衰退」の直接的な原因とまでは述べられていないことがわかります。正答率は72%でした。

問13【内容合致問題】（解答番号は19・20）

正答は②と⑨です。本文の第1・2段落を読めば②を導き出せるでしょう。一方、⑨は本文終わりから第1・2段落の内容が該当します。⑧は空欄「乙」の前の箇所では「化石燃料の枯渇」ではなく「生物絶滅」となっていることから不正解になります。細部までよく読みましょう。完答問題のため、正答率は33%にとどまりました。

II

出典 『山の自然学』（小泉 武栄）岩波書店1998年

川の氾濫や土石流による森林の破壊が、じつは森林の更新に役立っているということを説明しています。2つの段落が1つの事実についての2つの事例説明であることに注意して、文脈を正確に把握することが大切です。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は21～27）

a 倒木 b 流路 c 既存 d 猛威 e 克（刻）明 f 犠牲 g 慎重 がそれぞれ正答です。全問正答率は11%でした。「既存」を「規存」と記す答案が散見されました。

問2【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は28）

空欄「I」の直前に「これに対して」とあるため、空欄「I」については少し前の記述を読めば、容易に正答を得られるでしょう。また、これについて「荒れた感じ」と記していることから、空欄「II」は空欄「I」と対照を成すことがわかります。空欄「III」は文脈の合理性から判断できるでしょう。正答は⑦です。正答率は82%でした。

問3【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は29）

環境庁と建設省が長年にわたって対立していたとの文脈を理解できれば、空欄「X」は容易に正答を得られるはずです。正答は⑧です。正答率は93%でした。

問4【空欄補充 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は30）

「いったんは呆然としてしまった」が、思いがけない幸運な結果が得られたとの文脈なので、空欄「Y」は前後の関連性から判断できるはずです。正答は⑧です。正答率は63%でした。

問5【空欄補充 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は31）

「土石流の発生をうまく利用するもの」があらわれるとの記述は、土石流が溪畔林の植物にとって空欄「Z」ではないとの文脈に繋がっています。正答は⑦です。正答率は74%でした。

問6【空欄補充 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **32**）

「一目で知ることができた」「少なかったこともわかった」と効果的に働いたことが文脈から理解されるので、空欄 **ア** は容易でしょう。正答は①です。正答率は96%でした。

問7【傍線部の理由 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **33**）

森林と梓川が密接に関連している具体的な記述は、次の段落にあることを文脈から判断する必要があります。正答は⑤です。正答率は75%でした。

問8【傍線部の理由 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **34**）

「極端な隔離分布」の示す具体的な内容を正確に把握することが解答のポイントになります。正答は⑤です。正答率は35%でした。

問9【傍線部の理由 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **35**）

「同感」の内容を文脈から正確に把握し、その理由に相当する記述を判断することが解答のポイントです。正答は②です。正答率は75%でした。

問10【傍線部の説明 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **36**）

「仮説」についての具体的な記述は後段にあり、筆者独自の解釈が示されている箇所注目する必要があります。正答は⑧です。正答率は23%でした。

問11【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は **37**）

梓川を主役として上高地の自然をめぐる事例が展開する記述を読み解くことが大切です。正答は①です。正答率は49%でした。

問12【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は **38**）

土石流が森林の更新に役立っている実例として、三頭山のシオジ・サワグルミが具体的に取り上げられている趣旨を理解する必要があります。正答は⑥です。正答率は4%でした。

問13【内容合致問題】（解答番号は **39**・**40**）

正答は⑦と⑧です。①についてはケショウヤナギは上高地から東北地方まで伝播したわけではなく、その逆に、東北地方から上高地まで伝播したとみられる記述があります。②は「これまで」という漠然とした期間設定が誤りです。③は本文中に「おそらく」と記す推測の文章を「明らかであり」と断定することが誤りです。④に関しては「野外実験」の趣旨は、調査中に森林の更新を目の当たりにしたことであり、シオジとサワグルミの立地環境の調査ではありません。⑤は湖沼と湿原を上高地の魅力の本質とする記述が本文にありません。⑥については「両岸」で性格が大きく変化するのではなく、河童橋の上流と下流で性格が異なると本文に記されています。⑨に関しては砂防工事の担当者に理解してもらいたいのは「自然の土石流発生の仕組み」ではなく「自然の仕組み」です。⑦の正答率は31%、⑧の正答率は5%でした。

問14【本文標題の選択問題】（解答番号は **41**）

土石流も含めて、川の氾濫が森林を更新するという本文の主旨を把握することが肝要です。正答は②です。正答率は49%でした。